



伊予竹に土佐紙はりて あわ(阿波)ぐれば讃岐うちわで しごく(四国)涼しい

誠

弟と共に
教育に尽くす

笑わしやんすな百年先は 財田の山から川舟出して 月の世界へ往来する

弟彦二郎
忠誠塾(現・忠誠学園)設立

弟と共に
教育に尽くす

育医講発起

北海道移民推進

姊妹都市洞爺村

讃岐殖産会社

瀬戸大橋構想

讃岐鉄道開設

大久保謙之丞の生涯

わがもののひとのものというもののものは世間のものなものなり

A circular map of the Shikoku San-no-Michi pilgrimage route, featuring a green outer ring and a yellow inner ring. The route is marked by a red line connecting various shrines and temples. Key locations labeled include Matsuyama, Kochi, Takamatsu, and the northern points of Tosa, Iyo, and Sanuki provinces. A small inset map at the bottom center shows the location of the main route within Shikoku. Vertical text on the right side reads "四国新道着工 ルート".

北海道移民推進 姉妹都市洞爺村

吉野川導水
を提言

現・香川用水

姿を望む 

嘉永二年(一八四九) 慶応二年(一八六六) 明治五年(一八七二) 明治六年(一八七三) 明治七年(一八七四) 明治八年(一八七五) 明治九年(一八七六) 明治十年(一八七七) 明治十一年(一八七八) 明治十二年(一八七九) 明治十三年(一八八〇) 明治十四年(一八八一) 明治十五年(一八八二) 明治十六年(一八八三) 明治十七年(一八八四) 明治十八年(一八八五) 明治十九年(一八八六) 明治二十年(一八八七)

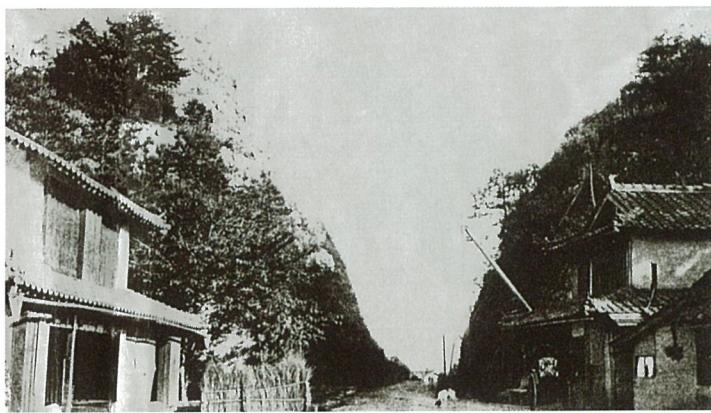
八・一六 財田上ノ村奥尾谷に、森治の三里として誕生。(黒船が浦賀に来航し攘夷か開港かの騒然たる時代)
二三歳 村役場に勤務。満濃池の大改修に参加。
一七歳 長谷川タメと結婚。翌年一二月キタ
工誕生。
二三歳 戸川へ屋敷変え、道路を抜んで上屋敷(兄克義の本家)
二六歳 名東県第一二三区六小区の副戸長、同年戸長となる。
二八歳 体調が悪く戸長辞職願を出すも村民留任を望み、荒戸組から村民条約書が出される。
二九歳 粟尾峠(太鼓木道)を開削、西ヶ峰道路改修。
三〇歳 三野豊田郡役所の勧業係となる。
女子を甲州に派遣、養蚕の技術、製糸の機械装置を導入、織機物業移植、「育医講」を発起し郷土の医師を養成。
三五歳 四国新道開削を提唱、四国新道期成同盟会を結成、愛媛・徳島・高知の三県に請願書提出。
三六歳 愛媛県農談会員となる。
三四歳 四国新道開削のため三県を遊説、同年、三日後、近郷に六橋を架設。
三七歳 猪ノ鼻隧道と吉野川導水を愛媛県に上申すが会合し申合書に署名捺印した。
三九歳 平神事場で起工式挙行、請願者総代・譲之丞、接拶、財田村民より唱義書・鍵おどりを披露する。
一二月戸長に就任。
三八歳 北海道移民を奨励、三月三野郡豊田郡北都海道移民周旗委員の委嘱を受ける。四国横断鉄道建設の請願委員となり奔走。
四〇歳 愛媛県会議員。
四一歳 第一回香川県会議員となる。多度津港改修委員となり県に上申する。
講岐鉄道開業記念式典の祝辞で瀬戸大橋架橋を提唱する。
四歳 移民推進のため北海道に赴く。
四国新道のうち講岐阿波新道が完成。
四二歳 県会開会中に倒れ、一二月一四日吉松病院にて死去。開導院釋嚴淨居士
譲之丞の功績を讃えて西園寺公望より追賞
四国新道完成。
顯彰碑を戸川に建立。
銅像が琴平・金山寺山公園に建立。
財田町戸川公園で譲之丞まつり誕生。

郷土の先覚者「大久保謹之丞」と四国新道

大久保謹之丞は、嘉永2年(1849)財田上ノ村(現三豊市財田町)に生まれる。明治5年村吏となり、三野豊田郡(後の三豊郡)の吏員をはじめ数々の委員などを歴任し、明治21年には県会議員となって活躍した。

四国の発展に夢を抱いていた謹之丞は、明治19年(1886)四国全域を結ぶ新しい道路として四国新道の開削工事に着手した。途中にそびえる険しい山々や、地域の農民の激しい反対運動などさまざまな困難を乗り越え、明治27年(1894)に開通させた。この道路は、国道として改良工事が進められ、今も、国道32号(319号)として四国の経済や観光の大動脈として活用されている。そして、猪ノ鼻峠の道路は、より安全で円滑な交通確保や県境を越えて地域の連携強化支援のため、「国道32号猪ノ鼻道路事業」が計画されています。

謹之丞は、当時、すでに阿讚山脈にトンネルを貫いて、吉野川の水を讃岐に引くという吉野川導水計画(現香川用水)や本州と四国に橋を架ける構想(現瀬戸大橋)を提唱するなど、その先見の明と構想の偉大さをうかがうことができる。



昭和23年頃の猪ノ鼻峠(出典:新修財田町誌)



改修前の旧国道32号(出典:新修財田町誌)(JR猪ノ鼻トンネル入口付近)



現在の国道32号(出典:香川河川国道事務所)



謹之丞の功績を讃える鉦おどり(出典:鉦おどり保存会)

この地図は、国土地理院長の承認を得て、同院発行の数値地図25000(地図画像)を複製したものである。
(承認番号一平204四復第92号)